ダムの入札契約制度における現状の課題と対応

ダムを巡る状況

・ダム事業に対して多額の工事費を要し、環境へ大きな影響を与えるなど様々な指摘がなされている。
・幾つかのダムで大幅な総事業費の増加が生じ社会的に注目を浴びる事態も見受けられた。
・ダムの必要性を十分見極めたうえで、必要なダム事業を進めることが重要であるが、その事業推進にあたっては、ダム工事の適正な品質と安全性を確保しつつ抜本的なコスト縮減を図ることが必要である。

ダム工事の流れ	現状の課題	受注者に係わる対応	発注者に係わる対応
	※ 発注者のインセンティブ ・発注者におけるVE（設計・入札時・契約後）への積極的な取組が必要		○ 縮減額の有効利用 ○ 表彰、目標及び成果の公表等によるインセンティブの付与 ○ 提案者（個人）名の公表
	※ 発注者のスタンス ・発注者は最良の標準案を作成するスタンスであり、VE提案の範囲を施工機械など要素技術に限定のため受注者からのさらなる提案は困難		○ 技術提案を受注条件とする ○ 発注者が作成した標準案を示さない ○ VE提案範囲の拡大
	※ リスク分担 ・リスク分担についての十分な議論がなされていない	○ 技術提案に対する適切なリスク分担	
	※ 検証 ・VE（設計・入札時・契約後）提案による最終的な効果を十分には把握できていない		○ コスト縮減状況や提案実施状況のモニタリング ○ 成果の公表
設計段階 ダム本体概略設計 ダム本体実施設計 設計図書作成 ○設計VEの実施	※ 受注者のインセンティブ ・VE検討会メンバーが発注者中心となっており民間企業のノウハウが十分に活用できていない ・VEに加わった施工業者は、工事を受注できない（設計・施工分離の原則）	○ 設計・施工（計画）施工一括発注	
工事調達段階 入札公告 技術提案の提出 技術審査 競争参加資格者決 入札 落札者の決定 ① 本体契約までの流れ、参加資格要件、技術提案作成要領、技術審査方法等を公告 ② 参加希望者は参加表明、さらに技術提案（VE提案）を提出 ③ 発注者は技術提案内容を施工性、安全性等の観点から競争参加資格を審査（入札参加者の決定） ④ 競争参加者は入札書類（工事価格、総合評価方式の場合にはその他提案等） ⑤ 最低価格者を契約相手として決定（総合評価落札方式の場合には評価値の高い者）	※ 受注者のインセンティブ ・提案全体（価格）が技術的に評価されずVE提案が認められても落札するとは限らない ・技術提案することによるメリットが小さい ・工期短縮提案を求められていないので技術提案する動機付けがない	○ 優良提案者へのインセンティブ ・技術的に裏付けされた価格競争 ・コスト縮減額の一部を報償金とする ・工事評価点等へ加点 ・提案者（個人）名の公表 ・特許等独自技術による提案の推奨 ○ 技術力の適正な評価 ・入札額、コスト縮減提案等 ・落札額、単価等	○ 弾力的な予算の確保 ○ 早期供用のメリットを勘案した工期短縮提案
	※ 提案範囲の限定 ・施工計画について独自案の提出が少ない		○ 発注者の施工計画（案）を提示しない ○ 設計・施工（計画）施工一括発注 ○ 技術提案の検討期間を長くとる
	・全体工事を分割発注している		○ ダム本体工事全体・ゲート、機械設備等も一緒に発注する（異業種JV）
建設段階 契約（発注） 建設 ダム建設 ○ 契約後VEの提案内容を審査	※ 受注者のインセンティブ ・VE管理費だけでは提案が消極的	○ CM等の別組織によるVE提案の競争 ○ VE提案検討費用の支払い ○ 工事評価点に加点 ○ 提案者（個人）名の公表	
	※ 審査の充実 ・当初設計の事前チェックが難しい		○ 当初設計の事前チェックの充実（コスト縮減に関するデータベース）
	・VE審査期間が短い		○ 審査体制の強化・迅速化 ○ VE審査期間を長くとる